

Vol. 304 私が尊敬する世界で一番貧乏な大統領『ホセ・ムヒカ』
(平成 27 年 5 月 25 日)

私より4つ若く1935年ウルグアイの首都モンテビデオの極めて貧しい農家で生まれ、家畜を育て、花を売って少年時代を過ごして25歳のころから極左ゲリラに入って反政府ゲリラとして活動して、6発の銃弾を受け、4度逮捕投獄され、2回も脱獄した後も1972年軍事政権に人質として13年間捕らえられ、軍事政権が終わるまで獄中で過ごしたという長い闘争歴を持った人です。釈放後はゲリラ仲間と左派政治団体を結成して下院議員となり、2009年の大統領選に出馬、反米左派かと懸念されたが中道左派路線を強調して決戦投票の結果第40代大統領となった人です。



私はこのムヒカが同世代の生まれであり、豪華な大統領豪邸に住まず、妻の農園に住んで花を育て、畑仕事を楽しむ生活を送り、給与(115万円位?)の90%は社会奉仕財団へと寄付し、愛車は1987年製フォルクスワーゲン、現在のこの年式価値は約32万円、この彼の愛車を1億1600万円で買いたいと打診があったが、古い友人からもらったのだから売れないと断ったと伝えられます。私のベントは1991年製、彼の車は28年目、私の車は24年目、私の給与の50%は通称秋元年金と言う奉仕で消えて行きます。そして彼に私が共鳴しております事は、かの有名なリオ会議(環境問題)での「今、人間が見直すべきこと」と訴えたスピーチであります。「質問をさせて下さい、ドイツ人が1世帯で持つ車と同じ数の車をインド人が持てば、この惑星はどうなるでしょうか?息する酸素はどれくらい残るでしょうか?西洋の富裕な社会が持つ同じ傲慢な消費を世界の70~80億人の人が出来る程の原料がこの地球にあるでしょうか、貧乏とは少ししか物を持っていない人ではなく、無限の欲がありいくらあっても満足しない人の事です。基本的な問題は私達が実行した社会モデルなのです。そして改めて見直さなければならぬのは私達の生活スタイルであります。発展は幸福を阻害するものであってはなりません。発展は人類の幸福をもたらすものでなくてはなりません。愛情や人間関係、子供を育てること、友達を持つこと、そして必要最低限のものを持つこと、これらをもたらすべきなのです。私達は発展するために生まれて来たのでありません。幸せになるために地球にやってきたのであります。人生は短いし、すぐ目の前を通り過ぎて行きます。命より高価なものは存在しません。人は物を買う時、お金で買っていないのです。そのお金を貯めるための人生を裂いた時間で買っているのです。人間はもっと良い暮らしを持つために物が必要なのです。それを達成するために消費と仕事をどんどん増やさなければいけない計画的陳腐化や底を知らない消費主義社会にイエスと言ってはいけません。お金があまり好きな人達には政治の世界から出て行ってもらう必要があります。彼らは政治の世界では危険な人達です。お金の大好きな人達はビジネスや商売のため身をささげ、富を増やそうとするものであります。しかし政治とはすべての人達の幸福を求める闘いなのです。」ここまで書き終えて近く中華店へ食事に来ましたが、店の読売新聞の新刊広告欄に「汐文社発行：世界で一番貧しい大統領のスピーチ」と出ていました。ベストセラーになりそうです。是非お読みください。